

共済事故に関する調査結果

当該表は、家畜共済の共済事故の要因について調査を行った令和2年度病傷給付適正化のための家畜診療実態調査の結果を取りまとめたもの。

(1) 家畜の共済事故について（乳用牛）

表 1-1 農家に大きな経済的損失をもたらす疾病・傷害であって、農家間で被害の大きさ（発生頻度）が大きく異なると思われるもの

疾病・傷害名	回答のあった施設数、割合
乳房炎	107施設、81.1%
周産期疾患	64施設、48.4%
運動器病	58施設、43.9%
繁殖障害	53施設、40.2%
子牛の腸炎	10施設、7.6%
呼吸器病	8施設、6.1%
牛伝染性リンパ腫	8施設、6.1%
サルモネラ症	3施設、2.3%
消化器病	3施設、2.3%
子牛虚弱症候群	2施設、1.5%
熱射病	2施設、1.5%
牛ウイルス性下痢、出血性腸症候群、マイコプラズマ性関節炎、牛ボツリヌス症、不慮の外傷	各1施設、0.8%

表 1-2 農家間で被害の大きさ（発生頻度）が大きく異なることに影響していると思われる要因

(単位：施設)

疾病・傷害名	飼い方（ぎ、リース、放牧等）	外部からの家畜導入頻度	家畜の観察頻度・観察力	搾乳方法	初乳の給与	飼料の与え方	飼料の種類・質	畜舎の清掃・消毒	畜舎内の飼養密度	畜舎内の環境（温度調整、気換等）	病畜の管理方法・治療方法	ワクチン（予防薬）の投与	その他
乳房炎	40	9	25	87	0	19	27	75	17	46	37	21	5
周産期疾患	31	5	29	0	0	44	50	4	16	13	24	0	1
運動器病	47	6	19	0	0	18	23	22	14	19	23	0	10
繁殖障害	22	2	46	2	0	31	39	3	8	16	8	1	1

表 1-3 乳房炎の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
搾乳衛生管理の違い	乾乳期治療の実施
乳房を中心に牛体が汚れていない	牛も牛舎も汚い
衛生的な搾乳法の実施	環境が汚い。敷料の不足
牛床に作業ズボンで座ることが可能。いつ牛舎に行っても飼い主が牛舎にいる。	牛床にゴムマットが敷いてあり、敷料が少ない。常に糞尿が牛床にあり湿潤な状態を維持している。
牛床の消毒、適正な敷料の量、乳房炎ワクチン接種	牛床の汚れ、敷料不足
敷料をふんだんに使い牛体が清潔、ワクチンで予防している	敷料が少ない、牛体が汚れている、ワクチンなどの経費が掛けられない
牛体・牛舎の清掃を毎日行い、換気にも気を使って牛床が乾燥している。また密飼いにしないように管理している。	寝床が湿っていたり、糞尿で汚れている。搾乳時の清拭が不十分。搾乳衛生指導を行う。
ベッドの状態、牛舎内の湿度が良好。粗飼料の摂取量が多い。	牛床・牛舎全体が湿っている。比較的濃い飼料を与えている、過搾乳による乳頭口の損傷が多い。
搾乳衛生に気を使い、過搾乳にならないように気を付けている。牛舎全体的に衛生的である。	牛床が糞便で汚染され、常に湿潤で牛体も汚れている。
搾乳機器の定期検査、分娩時のSA検査等	搾乳衛生の再認識、搾乳機器の点検、牛床管理
畜舎内ので徹底清掃	乳房のディッピングを清潔に行っていない
牛舎環境が清潔、搾乳時間・方法が一定・正確	搾乳衛生環境が劣悪、抗菌剤治療への反応が悪い
意識の高さ（勉強・ワケなど）	昔ながらの搾乳方法
牛床の清掃、ストレスを与えない飼養	乳房に糞尿が付着していても気にかけない

搾乳衛生が行届いている。牛床も清潔。	牛床が汚れているため、牛体も汚れている。
適切な搾乳方法、衛生的な環境	過搾乳等により乳頭が損傷している

表 1-3 乳房炎の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
敷料に石灰を混ぜる。ディッピングの実施。	複数人での搾乳（対策として、初心者への指導）、過搾乳（対策として搾乳技術の指導）
清潔な牛床の維持、衛生的基本的な搾乳技術の徹底	衛生的基本的搾乳技術の不徹底、不潔な牛床の放置、飼料設計の不備
ワクチンを使用している。乳房炎を発見したら早期に乳房洗浄や、抗生剤の注入をしている。	牛体、乳房が汚染されている。搾乳器具等の不衛生。
甚急性の乳房炎を疑った段階で乳房洗浄など必要な対策を講じている。敷料にオガクズを使用している農場や発生しやすい農場ではワクチンを使用している	敷料に濡れたオガクズを使用しているまたは牛床の管理ができていない。発見が遅く獣医師が診察するまで処置をしていない。
過搾乳防止 牛床の乾燥	過搾乳 牛床の汚れ
牛床の清掃と乾燥がゆきとどいている	フリーバーンで糞が堆積している
牛舎環境や換気等が良く、搾乳衛生の改善点を素直に実行しているなど搾乳管理が徹底されている。	搾乳は漫然と行い改善指摘を実行しない。また、牛舎環境や生乳処理室の衛生管理が悪く、搾乳機器の点検も不十分。
早期発見および早期の治療依頼を徹底。搾乳方法が適切。	治療依頼が遅い。牛舎の衛生状況が悪い。自家治療が不適切。
敷料の検査、適切な敷料の管理、消毒。良質飼料の確保。	敷料の供給が追いついていないため、少量で多数の敷料があるため検査しきれしていない。一度汚染されてしまった畜舎内の敷料を全部取り除いて交換することができない。
衛生的な管理	不衛生な管理
牛床の乾燥（換気、乾燥剤）搾乳衛生順守	後継牛がいなく、慢性乳房炎牛の淘汰ができない
適切な搾乳を実施、清潔な環境、ワクチンの実施。	不適切な搾乳衛生。
搾乳方法が正確である。	搾乳手技が適正でなく、意識低い。機械類の老朽化。
過搾乳の防止 プレ・ポストディッピング 一頭一布の徹底等	過搾乳の防止 プレ・ポストディッピング 一頭一布の不徹底
1頭当たりの搾乳時間を5分以内にしている。牛床を乾燥させている。	1頭当たりの搾乳時間が長く、乳房に糞が付着している。
毎年ミルカー点検をする。	畜舎の牛床に糞尿が常時堆積しており汚い。
丁寧な作業	
牛床、ベットの清潔度。	牛体が汚れている。
搾乳衛生の向上（消毒、ディッピング、一頭一布またはペーパータオル）	搾乳衛生の完全実施がなされていない
牛舎内が清潔に保たれており、農場内で搾乳方法が統一されている	牛床環境が悪く、牛舎内も汚い、牛も汚い 搾乳方法が農場内で異なる
衛生的な搾乳を行っている。	搾乳衛生に問題がある。
衛生意識の高さ、細菌検査を行い傾向と対策を行っている。	衛生意識の低さ
清潔な搾乳ができています	不衛生な搾乳となっていることが多いため適切な搾乳手順を行う
搾乳を数名で行い、常に搾乳・ディッピング等の役割分担ができています	多頭飼育にて搾乳従事者の人員が少なく作業が煩雑になる
搾乳時の保定 早期発見治療。	牛の保定が統一性が無い。
搾乳時の手順徹底 慢性乳房炎の細菌を牛舎より排除	慢性乳房炎原因菌の常在 牛床の汚れ 乳房の汚水による濡れ方
飼養密度が適度で牛床の糞尿での汚染が少ない	飼養密度が高く、牛床に糞尿が堆積している
牛床の清掃、観察管理	
搾乳方法の指導	畜舎が糞尿により乾燥しない
畜舎、牛床の清掃が行き届いており、牛床が乾燥している。搾乳準備室が余裕のある構造になっている。	畜舎が散らかっている。搾乳時間を一番搾りきるのが遅い乳房に合わせている。
合理的な搾乳と清潔の維持 飼料計算の実施 コンサル等の第三者目線での評価に対する真摯さ	経営方針の不在
一頭一布 過搾乳の防止	前搾り ディッピングの実施なし
搾乳手順・感染予防がしっかりできている。	清掃が滞っていて、感染しやすい環境にある。

牛床の管理等	密飼いで糞尿が多い
繋ぎ飼いで牛床がきれい、濃厚飼料の過給がない	牛床が汚い
表 1-3 乳房炎の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）	
被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
前搾りチェック、1頭1布、十分な乾乳期間、搾乳機器の定期点検・部品交換、バケツミルカーの衛生管理	搾乳機器の適正な使用ができない。
早期発見・早期治療	
牛体、乳房の汚染が少ない。牛床の汚染が少ない。搾乳衛生がきちんと出来ている。	牛体、乳房、乳頭の汚れが目立つ。乳頭洗浄、拭き取りが雑。
搾乳方法が一定である、こまめな飼養管理（牛の状態を観察し、給餌等の微調整を行う等）	発生原因を外部（気候、餌の質、技術者等）のせいにする事が多い、低品質（カビ等）飼料給与
牛舎が清潔、牛舎が乾燥している、乳房が綺麗に保たれている、乳房炎に罹患した場合早期治療等の徹底。	床が糞尿で汚染され乳房が乾草していない、乳房炎罹患牛の治療遅延、
正しい搾乳手順を厳格に守る、フリーストールの場合、衛生的な敷料を定期的に補充する	ディッピングを実施しない農家が発症高い、フリーパーンの場合、1頭当たり10㎡以下になると乳房炎多発
搾乳手順の遵守	搾乳手順の遵守が不徹底かつ牛床の汚染
基本に忠実に作業を実施している。原因菌の検査を実施し感受性のある抗生剤が把握できている。	搾乳方法が不適切であったり、抗生剤の多用により耐性菌の出現が見られる。
乳房炎の発見と対応が早い	乳房炎の損害を軽く考えて対処が遅い
正しい搾乳手順を厳守し、定期的に機器の保守点検を行う。乳房炎ワクチンを利用し、乳質のチェックに努め、快適な牛舎環境を維持する。	ミルカー台数が多く過搾乳に陥る。牛床、牛体が汚れている。
飼料給与量と搾乳方法の学習等	搾乳方法、畜舎内環境の改善
舎内のベッドの敷料の乾燥・消毒、理想的な搾乳手順を各々が徹底	牛床・ベッドが糞尿で汚れている、過搾乳などで乳頭口が傷んでいる
搾乳作業にゆとりがある	1人あたりの搾乳ユニット数が多かったり、牛の並びがバラバラ等により、搾乳作業が追いついていない
個体管理、衛生管理の充実。飼料の質	温度、湿度高、衛生環境悪い、畜主高齢化
搾乳方法の見直しやミルカーの点検を実施することはもちろんであるが、どういうメニューの時に乳房炎が出るのか確認しつつ、メニューの調整をする	劣悪な飼料（サイレージ・副産物飼料）をそのまま給与する
指導を受けた搾乳手技を行う。乳房炎ワクチンを使用する	牛体が汚れている。乳頭清拭に使うタオルを1頭1枚にしない。乾乳の管理が悪い
牛床が清潔	牛床が汚い
搾乳機器が定期メンテナンスされている。泌乳生理に合った搾乳方法をとっている。	乳房炎による損失の大きさに気づいていない。
搾乳衛生・搾乳方法・搾乳機器を適正にしている	牛床衛生不良。我流の搾乳手技。機器メンテ不備。
過搾乳しない	床に糞尿があり乾燥していない
牛床の快適性	牛床が固い
農場ごといろいろ	農場ごといろいろ
1頭毎の消毒資材の交換及び確実な消毒。ワクチン全頭接種。早期発見と有効薬剤による適切な治療。	消毒資材の使いまわしと不十分な消毒。ワクチン不使用。自己判断による治療の早期切り上げ。
搾乳手技が正しい。搾乳器が正常に稼働している。生産者が自家治療をしない	直ぐに自家治療で乳房炎軟膏を注入する。搾乳手技とミルカーの整備がされていない。
清潔な搾乳 農家の几帳面な性格	牛床の汚れ 杜撰な搾乳
乳房炎発生時に培養検査のための乳汁サンプルをすでに採取してある。	培養検査を提案しても同意を得られない。
環境改善のため石灰等消毒剤の使用や搾乳衛生の徹底	牛床の管理不足、搾乳衛生が不十分、乳房炎罹患時の看護不足
できる限り原因究明にその都度対応する（乳房炎発生時に常に細菌検査を行い原因菌を同定する。）	搾乳衛生に問題があるが、そこに重点を置いていない、治療の方のみにウェイトを置いて対応していると解決に繋がらない。
無理な搾乳を行っていない。牛舎を衛生的に保ち、搾乳時には手指を清潔にしている。搾乳時の乳頭の洗浄・殺菌が徹底されており、感染拡大を防止している。	過搾乳。搾乳時に手袋を着用していない。搾乳時の洗浄・消毒が不十分。
牛床に石灰を塗布する。搾乳マニュアルの厳格化。	牛床の汚染。搾乳手順がマチマチ。

牛舎が清潔であることに加え、搾乳手順、時間が正しく行われている。	牛床の衛生環境が劣悪であり、また、搾乳手順も不適切である。
搾乳方法のマニュアル作成。実践。	ずさん、非衛生的搾乳。

表 1-3 乳房炎の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
牛床が乾燥していて、清潔である。過搾乳しない。	乳頭、乳房が汚れている。
農場内全員での搾乳ルールの遵守	誤った搾乳方法、病畜の把握ができていない
搾乳方法やミルクカーの管理が徹底している	黄色ブドウ球菌などの難治性乳房炎の摘発をしていない
牛舎が明るく、後継者もいると観察する時間も多い。	
ミルクカーの消毒点検。乳期に応じた給与量。	フリーストール内の糞の付着。
乾乳期治療、感受性検査を徹底している。	乾乳期治療不足、慢性乳房炎の放置。
搾乳衛生が徹底。	換気、衛生が不備。
牛床をきれいにしている。	牛床が汚れている。
牛床がいつも清掃消毒されている。	牛床に糞尿常時堆積し、汚染している。
乳質検査の徹底及びワクチンの使用	牛舎が汚れている
通年デントコーンサイレージの給与をしている。高タンパク飼料を控えている。	
牛舎が清潔である。	牛床が不衛生。
乳房炎ワクチン使用、搾乳機器の更新、敷料の交換。	搾乳衛生（過搾乳等）栄養管理が不適正。
健康第一の栄養設計。	ビタミン・ミネラルに対して無頓着。
乾乳期治療	過搾乳、治療の中断
搾乳時の洗浄、消毒、搾乳手順の正確さ。	牛床の汚さ、牛体乳房の汚さ、搾乳手順のいいかげんさ。
適切な機材の管理。衛生管理。	乳房を含む牛体が汚れている。
残念ながら被害が少ないという農家がないのが現状であり、具体的な良い事例を紹介できない。	日々の作業に追われ「牛を見る」という余裕がない。施設の老朽化や機器の老朽化があっても資金的に投資が困難。そのため、ますます作業効率が悪くなるといった悪循環。また、堆肥処理もうまく進まないために牛床が糞尿であふれかえる始末である。
衛生管理に対する意識が高い。	衛生管理に対する意識が低い。
	原因を特定しようとせず、むやみな抗生剤使用を続ける。
畜舎の消毒を徹底している。	床が汚れている。
常に清潔な環境をキープしている。	乳房への糞便付着機械が多い。

表 1-4 周産期疾患の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
牧草の収穫時期の差	牧草の適期収穫と乾乳管理
粗飼料中心のメニュー、もちろん高泌乳牛群ではない。	穀類中心のメニュー、高泌乳牛群、平均産次が低い
乾乳牛の管理の徹底と搾乳牛の群分け	分娩前の過肥。あるいは急激なコンディションの変化
畑の石灰投入量が多い。畑のカリウム量を知っている。	畑のカリウム量を知らない。
チモシーの極端な早刈をしない。	乾乳牛のツナギ変えを行っていない。チャレンジフィーディングを行っている。チモシーの極端な早刈。
分娩ペンの設置、十分な敷料の量、分娩管理システムの導入	分娩ペン未設置、分娩ペンの過密、乾乳期の乾物不足
注意深い観察、豊富で良質な粗飼料	繁殖効率が悪い、低品質の粗飼料、人手不足
乳量を求めず高負荷にならない飼いで、良質な粗飼料を給与することに気を付けている。	サイレージの質が悪いTMRを給与している農家に多い。
周産期の飼養管理の徹底	
畜舎にカメラを設置	分娩前後のケアができていない
粗飼料が良質（調製・保管が適正）、育成・乾乳期の管理が適正	粗飼料悪質（成分・汚染）、BCSのばらつき、育成・乾乳牛の管理に問題
搾乳、給仕以外にも牛舎に立ち寄り、観察、餌の押しをしている。	分娩後の食欲低下時、往診依頼が遅い。
乾乳・泌乳ステージ毎にBCSチェックしている。事故の少ない農場は自家産の牛もしくは外部から導入も未經産の牛である。また畜主が牛舎にいる時間が長い（6時間以上）	経産牛導入が多い。乳量を重視した飼料設計の農場
TMR等による適切な飼料給与、分娩前後の観察	粗飼料の給与不足
分娩房でお産をさせていたり予定日を把握して観察をしている	観察が不十分
乾乳期の飼料給与、環境	乾乳期に高カリウムの牧草給与 狭くて滑る牛床

粗飼料の質、分娩前後の管理良好	粗飼料の質、分娩間隔が長すぎる
産前・産後に十分歩行させている	横ませんが無く場所確保のため座りがち

表 1-4 周産期疾患の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
分娩予定日をしっかり把握している。分娩時に立ち会える環境にある。	管理する人数少ない。乾乳牛の管理環境が悪く、管理者の目が届いていない。
ストレスを最小限に抑えた飼養管理。	移行期における飼養管理の失宜。
良質の粗飼料の投与 リードフィーディングの徹底	良質の粗飼料の投与やリードフィーディングが徹底されていない
適切粗飼料・量給与、飼養密度	低品質粗飼料給与
個室の産室を用意している	畜舎の牛床に糞尿が常時堆積しており、滑りやすい。
事故軽減に向けた問題意識の高さ。	給与不足、栄養の過不足。
飽食で自給飼料をやる、Ca製剤に頼りすぎない	Ca製剤のやりすぎ、産前に肥えすぎ等
粗飼料は飽食状態にする	産前に肥えすぎ、粗飼料不足
分娩前の飼養管理と分娩事故を無くす介助方法の指導	乾乳舎がない、または分娩房が不足
常時お産に立会い、助産する	夜間の観察が足りない
乾乳期の添加剤を含めた飼養管理ができています。	無理な胎子娩出、添加剤の不足。
飼養管理の徹底	乾乳牛の飼養管理の煩雑さ
泌乳量が少ない、分離給与	泌乳量が多い、アシドーシス気味
乾乳期の摂取乾物量確保、産後カルシウム剤投与、良質粗飼料（サイレージ）の確保	サイレージ調整がうまくいかなかった。
乾乳期の管理（過密にしない、過肥牛にしない）	乾乳牛の過肥が多い。乾乳群の過密。
乾乳期の吟味した飼料給与、産後Ca剤の経口、皮下投与、観察の徹底、病牛管理の徹底	乾乳期の高K飼料給与、分娩後の観察不足、罹患牛のケア不足
起立不能となる前に、起立時のふらつきがある時点でのCa投与を実施している。豊富な敷料、頻回の寝返りといった手厚い看護を実施している。起立難渋の時点でスタンションから独房へと移動させ、起立の障害となる要因を減らしている。	餌槽と牛床の間の隔壁が高く起立行動を阻害する要因となる（近年建て替えを行った牛舎に多い）。敷料が少なく起立不能に陥った場合の筋損傷が重篤になっている。乾乳期の管理が不十分で分娩時に過肥・消瘦している牛が多い。蹄病や飛節周囲炎など起立が悪い牛が多い。
乾乳期に良質乾草を充分量給与している。	乾乳期にコーンサイレージを給与するなど、それらによると思われる肥満症候群。
産前産後の使用管理を徹底している	過肥もしくは消瘦の牛が多い
良い粗飼料を与え、周産期は個体の変調を早期に対応している	乾乳時期の食い込みが悪い、粗悪な飼料を給餌してしまう
乾乳と搾乳の飼料内容を見直し、かつ、その移行とその牛群がいる環境を整備する	飼料の内容を見直さない・サイレージ等劣悪でも変更しない・乾乳から分娩初期の飼料の移行を丁寧に行わない
太らせない、牧草を豊富に給与する。乾乳を集める	過肥にする。濃厚多給。牧草給与不足。
牛床の快適性	牛床が固い
農場ごといろいろ。	農場ごといろいろ。
乾乳期、特に分娩2週間前の栄養管理と分娩前後の観察が重要。早めの対応をとることがなおりずらい病気また長期不受胎に繋がる。	クローズアップ期の栄養の管理、分娩前後に体温、血中ケトン体を測定、場合によってはカルシウムを測定し、早めの対応がされていなく、状態が悪くなってから診療依頼がくる。
空胎日数 ハイリスク牛の別管理 分娩後の管理	観察力不足 遅い治療 狭い乾乳牛舎
乾乳の管理（飼養密度、給餌飼料の品質や給餌方法）、分娩時の対応（分娩牛の早期看護と適切な介助）、その後の観察や早期予防（経口薬対応等）	乾乳期の管理を重視していない。また分娩前後の異常をスルーしており、結果的に手遅れの重症例の疾患となってしまう。
適正なBCSを維持している。	過肥牛が多い。
乾乳舎を衛生的に保ち、食べる、飲む、寝るを十分に行える環境で管理されている。	乾乳舎の衛生環境や、飼養密度に問題あり。暑熱ストレスを受けやすい設備や環境である。
牧草の刈り取り及び土壌分析。	刈り取り時期が遅い。自家粗飼料。
乾乳中給与粗飼料中のK、Mg濃度。	粗飼料中の高いK濃度。
乾乳期の飼料の変動がなく、飼料の質がいい	乾乳時点で過肥が多い
分娩後、後肢バントの装着。	牛床へのマットの利用
分娩前の給与量。粗飼料の絶対量給与。	
粗飼料充分であり、日中放牧運動させている。	運動不足、分娩後濃厚飼料を多給している
牛床長さ充分で、Ca/Pの給与と適正である。	サプリメントに頼りすぎである。
良質の資料を与え、飼料設計をしている。	自給粗飼料の質が悪く、濃厚飼料多給している。
乾乳期の粗飼料の多給、泌乳初期の粗飼料の充分な給与。	濃厚飼料の多給、乾乳期の飼料給与の失宜。

安定的な自給飼料の調達（乾牧草、コーンサイレージ等）	牛の更新が思うように進まない。
----------------------------	-----------------

表 1-5 運動器病の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
	日々の作業に追われ「牛を見る」という余裕がない。施設の老朽化や機器の老朽化があっても資金的に投資が困難。
衛生管理に対する意識が高い。	分娩後の飼養管理ができていない
労働力に見合った飼育規模。	観察不足による症状の重篤化。
定期削蹄の実施、蹄浴の実施、正しい削蹄師の選定	乾物量の不足、削蹄の失宜、蹄浴の未実施
適切な観察により早期発見・治療を行っている	異常の発見が遅く、治療困難となることがある
滑走防止にバーク・砂・ゴムマット等の使用およびスプリットガードの使用	畜舎の床の清掃が不十分・病畜を別管理する施設がない
牛がよく寝ている。ベッドの状態が良い。ワクチンを使用している（死廃が少ない）	ベッドに牛が寝ていない
年に3回以上の定期的な削蹄・計画的な蹄浴。	不適切な削蹄（年1回と少ない等）。目地の摩耗やマットの劣化等滑りやすい牛床。
牛舎環境が清潔、削蹄時期が適正	牛床の構造・環境が劣悪、易感染性、繁殖障害多発、治療開始の遅れ
2～3回/年の削蹄	蹄病に対する意識の低さ
定期的な削蹄	過長蹄により重心が変わり体形異常
定期的な削蹄の実施 関節炎への早期治療	削蹄不足、関節炎の軽視からくる治療の遅延
定期的な削蹄を行っている。分娩スペース、患畜の介護場所が適切。	牛床が乾燥していない。産前の牛のコンディションが不適当。
牛床の乾燥 濃厚飼料の多給防止	牛舎の汚れ 敷料の不使用
乳牛の搾乳量を、飼養者の管理能力に合わせて牛に無理をさせない。また、削蹄が定期的に行われ、衛生的に敷料の管理がなされている。	飼料給与内容が関節炎に影響していることに関心を持たず、出荷乳量にはこだわる。また、牛舎環境の改善に意欲的でない。
定期的な削蹄を実施している（農場により必要回数は異なる）。蹄病を後回しにせず、早期に治療依頼している。	定期削蹄が不十分（飼養形態や疾病の発生頻度により必要な削蹄回数も異なる）。蹄病を後回しにする傾向。
個体によって給餌内容を変更、粗飼料を与える。	乳量重視としているため、寛容している。
適時削蹄とマット交換	削蹄、マット不備
毎月削蹄師が巡回 牛床マットの質と定期交換	削蹄の実施回数少ない 牛床の問題（狭い 湿潤等）
牛床管理ができています。	牛床が常時湿潤で過密である。
肢蹄及び牛床、通路を適切に管理	肢蹄及び牛床、通路の管理が不適切
年2回以上の削蹄実施及び牛舎内の暑熱対策が良好。	削蹄回数が少ない。
定期的な削蹄	削蹄の間隔が長い
係留方法 清掃回数の頻度が多い。	牛床、通路の汚染時間が長い。
定期削蹄され牛床乾燥に心掛けている	削蹄の不定期、牛床が湿潤（糞尿による）
牛床を清潔に保っている 発見が早く、看護が適切	牛床環境が劣悪
繋ぎ飼育で、他牛からの感染機会が少ない。	牛床の衛生管理、飼料給与体系に問題がある。
牛舎での管理時間が長い、よく牛を見ている	病状悪化してから診察依頼が多い
削蹄を年に数回行っている。又裂き防止ベルトの装着。寝返りをさせる。	牛床が硬い
乳量が少ない方が発生件数は少ない。削蹄などの蹄の管理に注意を払っている	乳量が多いと多発傾向にある。
牛床の段差の解消 定期的な削蹄。	牛床が短い
フリーストール フリーバーン 定期的な削蹄、護蹄	繋ぎ飼いでストールが短い。
適切な削蹄、治療	
放牧 牛マットを全頭用意	牛の体格に比べ牛床が小さい
タイストール	趾蹄が汚れやすい
繋ぎ飼育	フリーストール
早期治療、スクレパー、蹄浴設置、糞尿の汚染が少ない。	発見が遅く治療が遅い。蹄の汚染が目立つ。
飼養密度を100%以下にしている、定期的な蹄浴、跛行牛の早期発見・治療	飼養密度が100%以上、低品質飼料給与
年2回の定期的な削蹄実施、牛床が乾くように、十分な敷料を補充	定期的削蹄が実施されない、牛床の敷料不足で、蹄が湿潤状態
年2～3回の削蹄の実施及び牛床の乾燥	削蹄の頻度が極めて少なく牛床の汚染が顕著。

表 1-5 運動器病の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等 (前ページからの続き)

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
フリーバーンの牛舎ではほとんど蹄病は発生しない。蹄浴をしている酪農家では、趾間部の疾患が少ない。つなぎ牛舎でも、TMRを利用している。つなぎ牛舎で、自動給餌機を利用している。	フリーストール牛舎である。育成牛の預託先で趾皮膚炎に感染。蹄浴を利用していない。フリーストールの敷料として再生チップを利用している。
フリーバーン、フリーストール	繋ぎ飼い
濃厚多給にしない。乾いた牛床。定期削蹄。	穀類多給。定期削蹄せず。痛くても放置
適正な飼育密度と牛にとって快適な施設であること。床敷料の管理が出来ていること。	床の状態が悪い。飼育密度が高い。飼料を一気に食べる、好きな飼料だけを選び食いつける。
削蹄師に年に数回は削蹄を依頼している	牛床の管理や蹄浴などの衛生管理を怠っている
削蹄の実施（年2回以上）牛床の清掃回数を増やし、石灰塗布する。	牛床の清掃不足。削蹄不足。
跛行チェック。	跛行を気にしない。
	糞尿量が常に多くある。
定期的な削蹄の実施	床が硬い、治療開始が遅い
定期的に削蹄をしている	定期的に削蹄をしていない
牛床の長さ巾が適切。牛床マットの交換、削蹄。	体型の大型化に合わない旧牛舎、高い泌乳牛の採食不足。
蹄浴、削蹄頻度年2回＋α	削蹄頻度、敷料の不足
年2－3回削蹄、牛床改善。	牛床が短く、狭く、マットレスなし。削蹄を年1回するかしないか。
飛節部への挫創の予防	1頭当たりの牛舎の広さが十分でない
自家育成している。外部導入をしない。	
牛床を広く取り、危険場所のないようにしてある。	牛舎が古くスタンション飼養。牛床が狭い。
適正な削蹄、栄養管理が適正。	削蹄不良、栄養管理が不適正（アシドーシスなど）
粗飼料の給与の多さ、削蹄の回数の多さ。	牛床のすべりやすさ、削蹄の回数が少ない。
衛生管理に対する意識が高い。	観察力が低い。
定期削蹄・早期治療。	定期削蹄未実施。

表 1-6 繁殖障害の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
観察力	観察力がない（牛を見てない）
発情発見の徹底	発情の見逃し。長期空胎牛の放置
繁殖台帳の管理	観察を怠っている
TMR等による適切な飼料給与、発情の見逃しが少ない	空胎期間が長い未治療の牛が多い
適正な飼料設計と観察	飼料設計の不良、観察不足
牛群をよく観察している。産前産後の栄養管理に注意し、コンディションを維持している。	牛の観察を怠っている。産後のコンディションが悪い。
周産期病も少ない。	乾乳期からの管理が不良。粗飼料が粗悪または不足。観察時間および方法が不適切。
泌乳ステージあった飼料給与	ステージを無視した給与
良質粗飼料給与	低品質飼料給与 発情観察の時間と方法
綿密な飼料設計等に基づいて飼養管理を行っている。	自己流で飼料設計等を行っている。
栄養充足、記録	栄養充足不十分、記録管理不適切
牛舎滞在時間が長く、除糞時等にこまめに発情発見を実施している。	牛群の過肥及び削瘦の牛の割合が高い。
発情観察をする時間が長く、回数も多い。牛歩などの発情検知システム等で発情チェックをしている。	家畜を観察する回数や時間が短い。管理不足である。
発情発見に努めている	発情発来を薬剤に頼っている
観察力と観察時間を取っている	多頭飼育ではホルモンコントロールにより、労力軽減を求められる場合がある（事故外診療で対応）
牛の栄養状態が良く 畜主の発情発見率が高い	畜主が発情発見できていない
良質な飼料給与と発情発見にかけている時間が長い	牛にかかる時間が少ない傾向があるため、丁寧に時間をかけて観察を行う
十分な飼料の供給	飼料の供給不足
飼料給餌内容の調整	栄養度が低い 観察不足
飼養管理の徹底	飼料給与の煩雑さ
早期発見・早期治療	

表 1-6 繁殖障害の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
発情発見補助装置の装着、定期繁殖検診の実施、こまめな飼養管理	発生原因を外（気候、餌の質、技術者等）のせいにする事が多い、低品質（カビ等）飼料給与
繁殖記録、発情観察頻度、泌乳に応じた飼料給与	発情観察が頻度少ない、記録が曖昧、泌乳に応じた飼料給与がされていない。
朝晩の発情観察をしっかりと実施、繁殖の記録をきちんと整備している	繁殖記録の整備がなっていない
良質粗飼料・バランスの良い飼料給与を実践する。飼槽は十分なスペースを確保し・清掃を徹底する。	万歩計などを過信し、牛の観察を怠る。飼料給与に無頓着。飼槽の清掃頻度が少なく残飼が多い。
飼養者の管理の指導と学習	発情の観察、給与飼料の見直し等
農家がしっかりと発情の観察をしている。万歩計などの機器をつかい、発情発見に利用している。管理獣医師による定期検診を利用している。	牛の観察が不十分。乳量が高く、BCが低い牛が多い。
定期的な繁殖検診で個体の状態を把握、発情発見に努めている	畜主の牛の観察頻度が少ない
牛をよく観察し、微弱な発情兆候も見逃さないため、発情発見率が高い	牛舎に居る時間が少ない
牛の観察をしっかりと行う。定期的に繁殖検診を受ける。早期妊娠鑑定をする	牛の観察が出来ない。自己流の餌を与えて、栄養のバランスが悪い
飼料設計が上手くいっている	飼料設計が上手くいっていない
毎日定時（朝夕搾乳時と正午）に発情観察を行い、衛生的に授精している。検査せずとも兆候から妊娠を確信している。	微弱な発情兆候を掴むことができていない。
農場ごといろいろ	農場ごといろいろ
発情発見練熟度 無発情牛の早期発見治療	発情発見方法の不備 繁殖検診せず
定期繁殖検診を行っている。	妊娠診断や繁殖の検査を依頼してくるのが遅く、他の診療のついでが多い。
個体ごとのこまめな体調管理ができています 繁殖管理を、パソコン等でしっかり把握している	繁殖情報の管理がいい加減なため、妊娠確認やAI等が適正に行われていない 自給飼料の質が不安定なため、栄養に過不足ができています
繁殖障害は農場の大きな経済的損失となるが、その損失を減らすためのフレッシュチェックや検診の頻度を増やすことが農場への対応となる。結果として繁殖障害の発生頻度は増加する。	繁殖成績が良くない農場では積極的な管理を行わず、データとして個体の状況を把握していない、そのため、長期不受胎牛が増える。逆に疾病としての発生頻度は低下する（発見できていない）
BCSを利用した飼養管理。牛歩計の利用。スタッフ間の意思疎通。	栄養不良または過多。観察不足。
フリーストール等発情兆候が明瞭、AIを利用した繁殖管理システム	
繁殖検診の徹底。発情発見の徹底。	発情の見逃し。記帳がない。
発情発見率が勝負、いつも発情観察できる人が牛舎にいること。スタンションを外した後。	発情観察できる人が牛舎にいない
牛舎が明るく、後継者もいと観察する時間も多。	
ビタミン投与、繁殖検査を徹底している。	飼料の質、家畜の観察力不足
栄養管理、発情の観察、記録がルーチン。	栄養管理、発情の観察の記録なし。
良い飼料を与えている。	栄養不良の牛がいる。
畜主への栄養学の再考及び発情観察	飼養管理が全くされていない
通年デントコーンサイレージの給与をしている。高タンパク飼料を控えている。	
頻回の観察、栄養管理が適正。	観察不足、栄養管理が不適正（アシドーシスなど）
観察時間を決めている。早期介入する。	記録の不備
牛の観察力。治療にあまり頼らない傾向。	過肥牛や削瘦牛、観察不足。治療に強く頼る。
放牧場がある。	
ストレスを与えない環境で分娩させる。	つなぎのまま分娩させる。
定期繁殖検診・栄養管理。	乾乳時過肥。発情微弱牛の見逃し。

共済事故に関する調査結果

(2) 家畜の共済事故について (肉用牛)

表2-1 農家に大きな経済的損失をもたらす疾病・傷害であって、農家間で被害の大きさ(発生頻度)が大きく異なると思われるもの

疾病・傷害名	回答のあった施設数、割合
呼吸器病	112施設、79.4%
腸炎・子牛の腸炎	93施設、65.9%
繁殖障害	61施設、43.3%
牛伝染性リンパ腫	9施設、6.4%
消化器病	7施設、5.0%
胎児死	7施設、5.0%
ビタミンA欠乏	6施設、4.3%
子牛虚弱症候群	3施設、2.1%
難産	2施設、1.4%
マイコプラズマ性中耳炎	2施設、1.4%
肝炎	2施設、1.4%
尿石症	2施設、1.4%
牛ボツリヌス症、行方不明、臍帯炎	各1施設、0.7%

表2-2 農家間で被害の大きさ(発生頻度)が大きく異なることに影響していると思われる要因 (単位: 施設)

疾病・傷害名	飼い方 (単房牛舎、開放牛舎、放牧等)	外部からの家畜の導入頻度	家畜の観察頻度・観察力	初乳の給与	飼料の与え方	飼料の種類・質	畜舎の清掃・消毒	畜舎内飼養密度	畜舎内環境の管理(温度、湿度、換気等)	病畜の管理方法・治療方法	ワクチン(予防薬)の投与	その他
呼吸器病	40	40	56	31	18	17	59	77	82	33	59	9
腸炎・子牛の腸炎	26	13	48	52	39	36	65	39	43	32	39	6
繁殖障害	27	0	50	0	29	38	2	10	9	9	0	5

表2-3 呼吸器病の被害の小さい/大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
飼養密度が低く換気もできている	換気が悪く飼養密度も高い
ワクチン・予防薬の投与	換気・牛舎内の清掃頻度が低い
牛床が乾いている。	牛床が湿潤、牛舎の換気が悪い。
カウハッチの換気、保温を十分とっている	カウハッチの換気、保温対策。初乳の摂取量に注意
良好な温度・湿度管理	不適な温度管理
換気の徹底、適温の保持	悪臭(アンモニア臭)、冬期の低室温
頻回の観察、分娩時の立会い	人出不足、畜舎の清掃不足
初乳の適正給与、敷料の適宜交換、早期発見・早期治療	初乳給与法にムラがある、敷料交換の頻度が少ない、異常の発見が遅い
バイオセキュリティがしっかりしている。	バイオセキュリティが不十分で換気も悪い
密飼いにならないようにし、栄養が十分行き届いているかどうかの観察・管理を行っていること。	栄養状態が悪い牛が散見される。定期的な清掃が不十分でアンモニア臭がある。寒冷ストレスにさらされている。密飼いとなっている。
初乳加温器を用いたりして初乳を適正に給与し、独房やハッチ内の温度管理と換気に気を付けている。	初乳が適正に給与されず、独房やハッチ内の温度管理と換気がされていない。敷料が常に湿って汚れている。
舎内の環境衛生管理	換気不全、寒暖差
ワクチンを定期的に接種	狭い場所に密になっている
畜舎環境が清潔、導入が少ない、飼養管理が適正(栄養状態良好)	畜舎環境劣悪(糞尿処理・換気等)、外部導入不定期・頻回、密飼い、ワクチン接種により重症化防止対策
一生懸命世話している・ストレスの少ない飼い方をしている	汚いことや換気が悪いことに気が付いていない
導入牛専用の牛舎で一定期間飼育	密飼防止、換気の徹底、罹患牛の隔離

表 2-3 呼吸器病の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
夏場は乾燥、換気、冬場は暖に留意している。	牛床が常に湿っており、尿臭が顕著。
牛舎環境が良いところでは少ない（十分な敷料（診療の時でも長靴があまり汚れない）。牛舎内のアンモニア臭が少ない。	牛床の敷料が少なくまた糞尿の除去が徹底されていない。それに伴い牛舎内のアンモニア臭が強い。
牛床が清潔で換気が良い。	牛床が糞尿で汚れている。
ワクチン接種を実施している	観察不足
導入に対しては、隔離（2週間）。子牛の段階であるが、ハッチでの飼育により他の牛との接触を避ける。群飼に移った時のこまめな換気等の実施。	導入牛を既存の群に入れる。（対策として隔離の実施）ワクチン接種により予防的の処置を実施しても、飼育環境（密飼、温度、換気等の管理）が悪ければ、その効果は期待できない。
外部導入牛の適正な隔離場所及び時間の確保、早期発見早期治療の徹底。適切な飼養環境の確保	外部導入牛の適正な隔離場所及び時間、早期発見早期治療、適切な飼養環境の確保ができていない
環境が良い。ワクチンなどの予防をしている。よく観察している。隔離スペースがある。	密飼。換気が不十分。敷料の状態が悪い。
子牛での移動が少ない 飼養密度が低い	導入と移動が多い 換気が悪い
換気、舎内の清掃良好	換気、舎内の清掃不良
16㎡あたり5頭以下、週1回以上清掃	密飼い、糞尿常時堆積
すき間風がなく換気が良い、また、敷料を頻繁に交換するなど牛舎環境が良く、早期発見、隔離等管理が良い	適当な管理で、牛舎が汚く、疾病を発見しても、適正な処置をしない
ワクチン接種	敷料の湿潤
哺育・育成・肥育前期の適正管理	牛の生理を意識しない管理
換気のいい環境 カウハッチ使用 早期ワクチン投与	換気が悪い
観察力があり、求診が早い。 寒冷対策。	個体管理が悪く、求診遅い。 換気不良 寒冷ストレス。
家畜の観察、畜舎の清掃・消毒、畜舎内の適正な飼養密度、ワクチンの徹底	家畜の観察、畜舎の清掃・消毒、畜舎内の適正な飼養密度、ワクチンの不徹底
飼養密度が適切	飼養密度が不適切
冬期でも換気扇を回すなど、適正な換気に努めている。こまめな敷料交換。	換気が不十分で、過密状態で飼養している。
家畜をよく観察している。ワクチン等の予防プログラムを取り入れている。	畜舎の床に糞尿が常時堆積していて、換気が悪い。手間をかけない。
	畜舎の床に糞尿が常時堆積している
少頭飼育あるいは飼養密度が低い。放牧あるいは牛舎内の敷料交換頻度が高く、牛舎内換気が良い。呼吸器ワクチンのプログラム接種。	多頭飼育で飼養密度が高い。牛舎内の敷料交換頻度が低く、牛舎内換気が悪い。呼吸器ワクチンの未接種あるいはプログラムの接種でない。
ワクチン接種 個々の観察と病状の早期発見	ワクチンの未接種 病状の発見の遅れ 換気不足
ワクチン投与、寒冷ストレス対策、適切な初乳、飼料の給与	ワクチン投与していない、初乳給与や代用乳の投与量や方法が適正ではない、寒冷ストレス対策をしていない
母牛の栄養状態が良い 病牛の発見が早い 飼養密度が適切で牛舎内が清潔	牛舎内が汚く、換気が悪い 子牛の栄養状態が悪い
適正な飼養密度を保ち、換気等を心掛けている。	飼養密度が高い。病畜を隔離できない。
個体を見ている農家は被害が少ない	群管理なので、診療依頼時には重症化している
家畜の観察をよく行っている。	牛床が汚い、密飼い、外部導入頻度、ワクチンの投与
導入後は個別飼養し、丁寧に個体管理されている	個体管理がおろそかになっている傾向があるため、しっかりとした個体管理、ワクチンの利用を行う
カウハッチでの管理にて他牛との接触が少ない	独房内の集団及び密の状態
導入先の飼料内容から徐々に切り替える	変わらぬ飼養管理。
群編成を少数頭数 ワクチン接種	群編成頭数を減らす 弱い牛は隔離
個体数が少ない	個体数が多い為、密になりやすい
飼養密度を下げ換気をしワクチンを投与	飼養密度が高く畜舎内の換気が悪い
子牛の疾病は女性のほうが早く見つける。	畜舎が掃除されていない。
母牛の栄養管理が良い。 適切な飼養密度	畜舎環境（換気、飼養密度）が悪い
密飼いをさけワクチンの接種を行う	密飼いで症状の発現に気づかない
温度・湿度、飼料管理がしっかりと出来ている。	通気や外気の遮断に気を使っておらず、アニマルウェルフェアが考えられていない。
子牛へプログラムによるワクチン接種	畜舎の消毒が少ない ワクチン接種を指示
同居牛を少なくし、状態が悪い牛は隔離している。	治療（注射）だけに頼っている。

表2-3 呼吸器病の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
母牛の初乳を適確に飲ませる。	出生後ただちに母牛から離す。
適切な換気、適切なワクチンプログラムと発症牛への対処	換気が悪い。治療後の監視がおろそか。
食欲不振だとすぐに体温を測定する。	畜舎の床に糞尿が常時堆積している。子牛が冷たい所で寝ている、隙間風が入っている。ヒーターなど保温対策をしていない。水場を清潔に保っていない。過度の密飼い
肺炎個体を発見した場合すぐに診察依頼をしている。	過密である。牛床の清掃頻度が少ない（糞尿の体積によるアンモニア臭が強い）
換気を十分に実施、早期治療を実施、ワクチンプログラムも実施する	季節問わず、換気不十分で、治療開始の時期が遅いことがある
適度な換気を心掛けている	換気状態が非常に悪い
舎内の清掃頻度多く、牛床の汚れ・濡れが少ない、ワクチンの投与	牛床が糞尿で汚れ、アンモニア臭強く、症状が出てから対応が遅い
飼育頭数のコントロール、換気、牛床管理の徹底	換気状態が悪い
アンモニアの出ない換気、敷料管理。十分な哺乳量	湿潤環境。換気不良。哺乳量不足
畜舎の清掃、消毒等の頻度が多い	畜舎の清掃、消毒等の頻度が少ない
農場ごといろいろ	農場ごといろいろ
毎日の観察を怠らない。異常を早く見つける。敷料が乾燥している。	牛が沢山いる。月齢の異なる個体が同一スペースにいる。自家治療をしている。飼養環境が悪い
個体管理の確実にし、各種ワクチンの飼養をプログラムにして確実に実施	ワクチンを使用しない
導入時に群でのワクチネーションや予防対策、異常個体の早期発見を心がけて対応している。	早期発見が行われず、ワクチネーションも行わず、常に牛群内が感染状況が持続する。獣医師が早期発見摘発の部分まで担うことが必要となる。
畜舎消毒及びワクチン投与。牛床を定期的に交換している。畜舎清掃がされており、換気が十分行われている。	牛床にふん尿が堆積している。
群飼育でも、病畜を早期に発見する。病畜の隔離を実施。	軽度の症状が慢性的に見られるため、重症化するまで治療しない。
初乳の投与およびワクチン接種 頻回消毒の実施 換気の徹底 速やかな治療並びに隔離	消毒及び換気が行われていない。密飼い 不適切な治療
牛をよく観察。導入時の抗生剤投与。検査センター等で各疾病の各ステージごとの抗体価の測定を実施して適正時期のワクチン接種を実施している。密飼をせず、換気が良い。畜舎消毒を毎日実施している。	疾病牛の発見が遅く、自家治療後、状態が悪くなってから治療を依頼することが多く、重度の肺炎となり死亡につながる。計画的なワクチン接種が行われていない。
少頭飼育農場の発生は希。多頭飼育農場では野外パドックにアクセスできる牛舎では発生が少ない。	密集、換気不良、不衛生。
子牛の密度を少なくしている 換気及び蒸気により湿度を少し上げている	換気、牛床が汚れている、天井が低く蜘蛛の巣が多い、密飼
ワクチンを理解し継続	ワクチン接種牛の把握(理解)不足
鼻腔ワクチン、気温の急変化時の管理。	保温、換気等を行わない。
3ヵ月齢を超えるまで、独房飼いとワクチネーション。哺乳ロボットの場合は、少なくとも2㎡/頭の広さで飼う。できれば複数頭で移動をかける。	密飼いで、牛床汚れている。換気も悪い
踏み消毒槽や農場専用の長靴の設置は共通。特に死亡頭数の少ない農場では、農場へ立入るものに農場専用の着衣を準備するなど来場者に対しての衛生面への意識付けが適切に行われている。	防疫意識の低さは疾病多発農家で共通する特徴だが、診療に携わる獣医師やその他の畜産関係者の意識の差によっても農場での疾病の発生に大きく差があるのが現状だと思う。飼養衛生管理基準を理解し、畜産関係者が適切な防疫意識、衛生意識をもつことが農場の疾病の発生を少なくすることにつながると思う。
畜舎を開放型にして換気がいい	畜舎の換気が悪く、空気中のホコリやアンモニアが多い
畜舎内の換気 特に牛の高さでの臭気の有無	寒冷時に畜舎を密閉する 牛床の清掃が不十分 哺乳時期の栄養不足
飼養密度1平方メートル当たり0.3頭以下	増頭中で月ごとの分娩頭数にばらつきがあり、適正な飼養密度管理が難しい
定期的なワクチンの投与。	他の作業に追われ、病畜の発見が遅れている。

表2-3 呼吸器病の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
発見が早い 1頭熱があると周囲の牛すべての熱を測り早期発見に努めている。	発見が遅い。
ワクチン等の予防策や早期発見・治療を心掛けている。	観察不足と愛情不足。栄養不良・密飼い。
観察頻度や観察直が高い。牛舎に滞在している時間が長い。	古い（暗い）牛舎、高齢者が多い。換気が悪い。
導入時ワクチン、換気を注意。	
発見が早く、重症化させない。	
導入時の抗生剤、ビタミンの投与。	導入時のビタミン、抗生剤の投与をしていない。
異常牛の早期発見、治療。	換気不備。衛生管理がダメ。異常牛の発見、治療が遅い。
消毒の徹底励行。	導入時に予防治療を指導している。
一貫生産をしている。良好な換気。	頻繁に外部導入している。
季節、環境により換気、病畜の早期発見。	換気不良、過密飼育。
換気、牛床の乾燥度に注意している。	過密による環境悪化。
カーフハッチによる1頭ずつの管理、ワクチン投与。	飼養密度の多さ、牛床の敷料の少なさ。
牛舎構造や衛生管理が適切。	牛房内に糞が堆積し、アンモニア臭を発す。
ある程度月齢が進むまで一頭飼している	過密、牛床の堆肥が長い間そのまま。
ワクチネーションの差	密飼いで飼育されている。
ワクチンの投与、畜種の清掃、消毒。	牛舎内の清掃（堆肥処理に時間を要す）農家の認識の低さ。
換気	換気が悪い。
飼養密度（1㎡当たり1頭）	床が常に汚れ、換気が悪い。
初期治療を怠らないこと。	多頭飼育、隔離スペースが少ない。
牛舎内の換気、敷料の交換頻度。	牛床の床、壁が汚れている。
早期治療をする。	観察力がない。
1頭あたり8～10㎡のところでは発生は稀。	子牛の密度が4㎡以下で必発。
消毒（煙霧+消石灰と消毒液の塗布）、ワクチン投与。	密飼
適切な栄養管理、畜舎内を清潔にする。	不潔、換気不良、アンモニア臭充満。
牛舎広く、換気良い、ワクチン	密飼い。アンモニア臭、換気悪い
疾病の見分け。ワクチネーション。	指導助言しても、実行せず。
ワクチンの投与	

表2-4 腸炎・子牛の腸炎の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
ワクチン・予防薬の投与	
カウハッチの換気、保温を十分とっている	カウハッチの換気、保温対策。初乳の摂取量に注意
ワクチン実施、良好な牛床管理	不衛生な牛床
乾燥した牛床、十分な敷料、哺乳器具の正しい消毒の実施	牛床の汚染・湿潤、不潔な哺乳器具の使用
頻回の観察、分娩時の立会い	頻回の観察、分娩時の立会い
親牛の飼養管理・初乳給与がしっかりしている	親牛の飼料管理（粗飼料）が悪く、初乳の給与不足
初乳を分娩後6時間内に3リットル以上行っている。1日の哺乳量が十分に給与されている。常時生菌剤を利用している。	分娩場所や寝床が糞尿で汚れている。寒冷ストレスにさらされている。初乳給与が不十分で移行免疫不全がある。
初乳（製剤）の適切な給与。早期発見により電解質投与・生菌剤投与などを行う。	初乳製剤を飲ませない。敷料が汚れたまま。下痢をしても飲まなくなるまで気付かない。
初乳加温器を用いたりして初乳を適正に給与し、独房やハッチ内の温度管理と換気に気を付けている。	初乳が適正に給与されず、独房やハッチ内の温度管理と換気がされていない。敷料が常に湿って汚れている。
母牛の栄養管理、初乳給与の適正化、飼養環境の整備がしっかり行われている	母牛の栄養管理、初乳投与の適正化、ミルク投与の量、投与設備の衛生管理、ハッチ等の飼養環境の整備、初乳製剤、下痢ワクチンの使用。
子牛の観察による異変時の素早い対応	観察不足による対応の遅れ（重症化してから求診）
畜舎のこまめな清掃、消毒	狭い場所に密になっている
畜舎環境が清潔、飼養管理が適正（質・量）、ワクチンの応用	畜舎環境劣悪（糞尿処理・換気等）、個体管理不足、飼料中過デンブン濃度、ワクチン未接種
一生懸命世話している・ストレスの少ない飼育方をしている	汚いことや換気が悪いことに気が付いていない
牛床を乾燥させている	観察不足
子牛の段階であるが、初乳の給与についての確な時期（出生後6時間以内）に人工初乳を給与している。十分な敷料、またこまめな交換により牛床の環境を維持している。	敷料の交換をしない（継ぎ足し方式）。

表2-4 腸炎・子牛の腸炎の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
外部導入牛の適正な隔離場所及び時間の確保、早期発見早期治療の徹底。適切な飼養環境の確保	外部導入牛の適正な隔離場所及び時間、早期発見早期治療、適切な飼養環境の確保ができていない
環境が良い。ワクチン、生菌剤などの予防をしている。	牛床が乾燥していない。衛生状態が悪い。
下痢や軟便を早期に発見し給与量を調節している	下痢の発見が遅く、給与量を減らさず、飲まなくなってから治療を依頼している。哺乳瓶やバケツが汚い
冬期の温度管理と清潔な牛床	コクシジウム病の蔓延 牛床が濡れている
換気、舎内の清掃良好	換気、舎内の清掃不良
哺育担当の固定、1頭ごとにヒーター設置	流れ作業での哺育、カーフハッチで一ヶ月以上清掃なし
成長に伴った哺乳量を給与するなど個別管理や適正な飼養管理ができ、牛舎環境が良く、発症しても早期発見、隔離等管理が良い	適当な管理で、牛舎が汚く、疾病を発見しても、適正な処置をしない
哺育・育成・肥育前期の適正管理	牛の生理を意識しない管理
離乳時の良質粗飼料（中間粗飼料使用）暖かい環境	飲料水管理の不十分さ 牛床管理不足
母牛飼料給与良好。寒冷対策。	母牛飼料給与の状態が悪い。 寒冷ストレス。
牛床を乾燥させている。出生後6時間以内に十分な初乳を給与している。	牛床が湿潤で、糞尿が常時堆積している。
家畜をよく観察している。ワクチン等の予防プログラムを取り入れている。	畜舎の床に糞尿が常時堆積している。手間をかけない。
ワクチン接種 個々の観察と病状の早期発見	ワクチンの未接種 病状の発見の遅れ 牛床湿潤
適正な初乳、代用乳の給与、1頭ずつ個別に飼養、徹底した畜舎の清掃、消毒	多頭数飼っている、子牛をオールインオールアウトできず、清掃消毒を徹底できない、初乳、代用乳の投与量方法が適正ではない
母牛の栄養状態が良い 病牛の発見が早い 牛舎内が総じて清潔 牛床の衛生管理に気をつけている。	牛舎内が汚く 牛床も悪い 子牛の栄養状態も悪い
個体を見ている農家は被害が少ない	牛床の衛生管理が不十分である。
牛房の消毒や初乳製剤・生菌製剤の活用を行っている	群管理なので、診療依頼時には重症化している
カウハッチでの管理にて他牛との接触が少ない	牛床の清掃が行き届いていないため、清掃・消毒と生菌製剤の添加を行う
母牛の栄養状態が良い	独房内の集団及び密の状態
男性の飼料給付はばらつきがあることが多い。	母牛の栄養状態を良くする 特にたんばくを充足
母牛の栄養管理が良い	牛を観察する時間が短い。
母牛の分娩前後の増飼い。踏み込み槽による外部からの感染遮断。保温などの環境整備、ワクチンの利用	牛床の環境が悪い
温度・湿度、飼料管理がしっかりと出来ている。畜舎の清掃が行き届いている。	分娩房が少なく、消毒効果が得られない
母牛への予防ワクチン接種の子牛は下痢が少ない	牛床の清掃が行き届いていない。子牛に応じた飼養管理が出来ていない。
初乳、牛床等の管理の徹底	換気が悪く 畜舎が汚い 初乳製剤の投与の指示
母牛に与える粗飼料の品質が適切、ワクチネーション	
牛を何回も観察している。基本的に牛が綺麗。	母牛が過肥、配合多給
初回の初乳哺乳確認・人工哺乳。数料新鮮・豊富	畜舎の床に糞尿が常時堆積している。母牛の乳首が糞尿で汚れている。水場、餌場から異臭がする。
下痢の個体を発見した場合すぐに診察依頼をする。子牛ごとの哺乳量・便性状を毎回チェックしている（哺乳量の低下や下痢の有無を日常的にチェックしている）。初乳の給与量が多い。	出生直後の初乳摂取未確認。数料不良
数頭規模で目が届きやすく、頻繁にボロ出しをしている。	診察依頼が遅い。病原体による牛舎汚染（コクシジウム・クリプトスポリジウム）がある。
初乳をしっかり飲ませ、安定した温度を維持する	密飼いで、床面が常にべちゃべちゃか糞が堆積している。
導入時に予防薬剤の投与	初乳不足、特に冬場の寒さ対策が不十分
舎内の清掃頻度多く、牛床の汚れ・濡れが少ない、生菌剤など添加	感染している素牛の導入
ワクチンの接種、ハッチ等の衛生対策を徹底	不良・下痢の症状が出てから対応が遅い
初乳製剤や母牛へのワクチネーションの実施	予防対策せず、治療すれば良いと言う考え方。
乾燥した牛床。十分な哺乳量と哺乳器具の衛生。離乳を慎重に行っている。スターターを給与している	母牛の管理や分娩管理が悪い
畜舎の清掃、消毒等の頻度が多い	湿潤環境。不適正な哺乳量。不衛生な哺乳器具。てきとうに離乳。スターターを使用しない
農場ごといろいろ	畜舎の清掃、消毒等の頻度が少ない
	農場ごといろいろ

表2-4 腸炎・子牛の腸炎の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
管理者が一生懸命対応をしており、早めの対応を心掛けている。	畜舎が整理整頓がされていなく管理者が管理に対し真剣では無い。既に農場に病原菌が存在する。
牛床管理、県推奨衛生プログラムの実施	牛床の管理不足、母牛の飼養管理不足
分娩前の母牛への下痢予防ワクチン接種、コキシジウム予防薬の適時投与、駆虫薬投与など、予防に努めている。健康状態に関心がある。	下痢発症に気付かず、予防もほぼ実施していない。個体の毛ツヤや栄養状態に関心がない。
初期の段階の発生時点での対応（哺乳量の調整、経口補液剤などの使用、保温）が適切に行われている。	発生した場合に農場での対策は取らず、獣医師の治療に丸投げ、発見も遅く致命的な状態になりやすい
畜舎が衛生的である。牛床を定期的に交換している。牛床にふん尿が堆積していない。	牛床にふん尿が堆積している。
初乳の投与およびワクチン接種 牛床の清掃 消毒 病畜の速やかな治療並びに隔離	牛床の清掃や消毒が行われていない。牛舎内に踏み込み槽など長靴消毒設備がない
出生後、導入後の個体管理がよくできている。出生後必ず初乳製剤を投与する。導入牛へのミルク給与時に必ず乳酸菌製剤を添加する。疾病発生時には必ず検温を実施し、食事性の胃腸炎か、感染性の胃腸炎か診断し、自家治療を行う。自家治療で反応しない場合は早期に診療依頼を行う。	個体管理、個体観察ができておらず病気発見時はすでに悪化している。
母牛に対する飼料給与を考えている 分娩室の環境を考えている	分娩室の衛生管理がよくない、飼料特に自家飼料の作り方がよくない
母牛への飼料の急変をさける。清潔にしている。駆虫等を計画的に実行する。	清掃等が実施されていない。駆虫が実施されていない。
牛床をきれいにする。特に子牛が生まれてから腸内細菌が整うまで。	牛床汚い、温度調整も悪い
踏み込み消毒槽や農場専用の長靴の設置は共通。特に死亡頭数の少ない農場では、農場へ立入るものに農場専用の着衣を準備するなど来場者に対しての衛生面への意識付けが適切に行われている。	防疫意識の低さは疾病多発農家で共通する特徴だが、診療に携わる獣医師やその他の畜産関係者の意識の差によっても農場での疾病の発生に大きく差があるのが現状だと思う。飼養衛生管理基準を理解し、畜産関係者が適切な防疫意識、衛生意識をもつことが農場の疾病の発生を少なくすることにつながると思う。
飼料や床の管理が行き届いている	寄生虫の予防をしていない。寝床が汚れている。
ワクチン接種の徹底、床材の乾燥維持	個体管理の不徹底、観察不足、衛生環境が悪い、アンモニア濃度が高い
発見が早い。個体管理ができる。	治療が遅い。アドバイスを聞かない。
観察力、ワクチン接種。	観察力が低い。ワクチン接種をしていない。
子牛だけが入れる空間がある。	畜舎の糞尿の堆積期間が長い。
観察頻度や観察直が高い。牛舎に滞在している時間が長い。	古い（暗い）牛舎、高齢者が多い。
母牛の飼養管理が適正	牛舎の定期消毒の不徹底
母、子舎内環境の良さ。	牛舎内敷ワラの交換
親子とも分娩2か月まではラップは与えない。良質の乾草を与える努力をしている。	対策として分娩2か月程は良質の乾草を与える努力。
普段から投薬を徹底している。	投薬をしていない。
ワクチン（予防薬）の投与を行っている。	ワクチン（予防薬）の投与を行っていない。
異常牛の早期発見、治療。	衛生管理がダメ。異常牛の発見、治療が遅い。
温度調整、換気良い。	牛床が汚い。（糞尿で濡れている）
導入先を吟味している。導入時に予防的治療している。	下痢、血便について消毒薬を適正に選ぶ。
人工哺乳による管理、母牛の栄養管理良。	母牛の栄養管理不良、分娩集中による過密飼育。
カーフハッチによる1頭ずつの管理、生菌剤の投与。	ミルク給与時の乳温、寒さ。
初乳の給与と傍観対策。	牛舎内の寒冷対策がされていない。産室が未消毒。
ワクチンの投与。畜舎の清掃、消毒。	堆肥処理に時間を要す。農家の認識の低さ。
換気、粗飼料の品質。	換気が悪い。質の悪い粗飼料。
飼養密度（1㎡当たり1頭）	清掃、消毒が徹底していない。
農場主の観察力が良い。	牛床の床、壁が汚れている。
初乳をしっかり飲ませる。	観察力がない。
環境や母牛の飼料の質が良好である。	寒い環境（牛床が濡れている、糞便の上）で発生。
消毒（煙霧+消石灰と消毒液の塗布）、ワクチン投与。	密飼
母牛の栄養状態良い。ワクチン	母牛の栄養状態悪い
疾病の見分け。ワクチネーション。	指導助言しても、実行せず。
初乳の十分な給与	

表2-5 繁殖障害の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
適切な体重管理（過肥にならない様）	
観察能力	観察を怠っている
飼養管理が適正（栄養状態良好）、こまめな観察（発情見逃しの防止）	
一生懸命観察している・ストレスの少ない飼いをしている	定時人工授精プログラムに頼り切っている
分娩後50日を過ぎても無発情の場合相談がある。	分娩日の記録の管理方法、管理者が不明確。
パドック等で牛の行動が観察できる。	牛舎が暗い。
適切な飼料給与、発情の観察頻度が多い	発情観察不足、繋ぎ飼い
積極的に繁殖障害の治療依頼をしている。農場の繁殖成績を把握している。	分娩前からの管理（増飼いなど）が不良。粗飼料が粗悪または不足。観察時間および方法が不適切。
観察頻度が多く、観察力が高い	観察頻度が少なく、観察力が低い
授精後の発情回帰を見逃さない。適正なBCS。	過肥牛・消瘦牛が多い。授精後の発情観察を疎かにしている。
牛舎に行く回数が多かったり、発情観察の時間が長い。「牛歩」などの牛をモニターする設備をつけている。	家畜を観察する回数や時間が短い。管理不足である。
発情発見の観察頻度・観察力	発情発見の遅れ
良質粗飼料が給与されており、畜主の発情発見に対する意識が高い	栄養状態が悪く、畜主の発情発見に対する意識が低い
発情観察時間をしっかりとっている。	発情観察がおろそかである。過肥または消瘦している牛が多い。
BCSを見ながらの個体管理及び発情発見に時間をかけている	BCSの差が大きいため個体管理の徹底と発情観察を徹底する
十分な飼料の供給	飼料の供給不足
そもそも市場価値の高い母牛を所有していない	農場自体の問題ではなく、母牛そのものに原因があるものと考察
母牛の栄養管理が良い	母牛の栄養状態が悪い 観察不足
分娩前後の増し飼。発情発見。巡回指導による定期診断。	繁殖台帳の整備がなく発情の発見ができない。
早期離乳実施の農家は分娩間隔が短い	観察が朝夕だけ
分娩前後の飼養管理、牛の観察がしっかりできている。	分娩後の濃厚飼料給与が少ない。
飼養管理の徹底（粗飼料の多さ）	
観察時間が長い。よく牛を触っている。	尾が汚く発情粘液がでているのか汚れているか区別がわかりづらい（結果発情を逃す。）膣内留置型ホルモン剤に頼り過ぎている。（見る能力の低下）
1日3回観察・眼力：朝、昼、夕	発情発見時不明瞭
常に栄養状態を気にしている。	価格により飼料を頻繁に変更したり、量をケチっている。
十分な粗飼料を給与することが実施されている	飼料（特に粗飼料）の不足が目立つ農家は、繁殖成績安定しない
1頭ごとの飼養管理が徹底されている	牛群全体で牛が消瘦気味
畜主がしっかりと発情観察をしている。コンピューター等により繁殖成績の管理をしている。牛舎に牛の繁殖成績の一覧表があり、分娩予定日や受精日、次回発情予定日などがいつでも見られるようになっている。管理獣医師による定期検診を受けている。	発情発見が悪く、発情不明の稟告で診断しても異常のない場合が多い。繁殖記録があやふやな場合が多い。過肥の牛が多い。痩せすぎの牛が多い。
配合飼料を使わず、単味飼料を吟味し使用している。	発情発見せず、人工授精師、獣医師に頼っている。
発情観察時間が多い	牛の観察時間が短い。粗飼料、濃厚飼料が足りていない。
毎日の運動を実施、繁殖管理データの明確化と家族間の共有	ほぼ一生牛がつなぎ飼いで飼育され運動させない 繁殖管理のデータ管理がいい加減
飼養形態を群飼育とし、乗駕行動等で発情を観察	牛舎での観察時間が短い、牛床の管理不足
栄養状態を良好に保っている。分娩後40日経過した牛の繁殖検診受診頻度が高い。授精後40日程で妊娠鑑定を受ける。	繁殖検診や妊娠鑑定を受けることが無いが少なく、漫然と発情発来を待っている。受胎しない牛の診療を受けず、漫然と授精を続ける。
個体毎の繁殖周期を気にかけて観察している。個体毎に飼料給与を調整している。	労働力をオーバーした飼養頭数。繁殖に関する知識・観察不足。牛群の適切な更新が出来ていない。
毎日発情管理を丁寧に行っている。飼養管理がしっかりしている。AI利用による発情発見、繁殖管理	個体管理ができておらず、発情発見能力が低い。牛群内で過肥、消瘦ともに認められ、各ステージ別の飼料給与がなされていない。

表2-5 繁殖障害の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等（前ページからの続き）

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
多頭飼育の場合：繁殖サイクルに合わせた飼養管理、特に分娩前後の栄養管理に努めている。少頭飼育：BCSが常に良い。	繁殖牛の栄養状態を把握していない。自給飼料、牧草に対する栄養評価ができない。
朝・夕の牛の観察の徹底 飼料給与特にCPとボディコンディションに注意している	分娩前後の濃厚飼料の給与をあまり考えていない（母牛の痩せすぎ、太りすぎ）朝夕の観察不足
飼料作付け及びその給与の適正化	牧草、飼料の理解不足
自給飼料の質がいい。観察力が高い	飼料の質が悪い
いかに良質な粗飼料を作るか 土壌作りが基本	哺乳時期の栄養不足による削瘦 給与している粗飼料の質・量
適正なBCSの維持、発情観察の徹底	分娩後のBCSが低いまま。栄養不足。
気になると農家自ら直腸検査をする。	授精に対して他人任せ。
飼養管理、ボディコンディション。	栄養失調、密飼。
出来るだけ青草の給与等、ビタミン、ミネラルのバランスを考慮している。	つなぎ飼いで運動量少ない上に餌を多めに与えている。
発情発見率が高い。	ボディコンディションが適切でない。（やせすぎ・太りすぎ）
観察頻度や観察直が高い。牛舎に滞在している時間が長い。カレンダー等にメモ書きが多い。	古い（暗い）牛舎、高齢者が多い。記憶が曖昧、メモがない。
頻繁な観察、定期健診	朝夕の観察不足、BCSの意識欠如
産後の粗飼料に注意。	栄養管理、ビタミン補給。
飼料を適量とし、過肥を警戒。	
栄養管理、発育観察、記録が日常化。	栄養管理がダメ。発情観察、記録なし。
頻回の観察、栄養管理が適正。	栄養管理不良、観察不足。
牛をよく観察し、発情発見に努めている。	観察不足。治療に強く頼る傾向。
基本の粗飼料が安定している。	粗飼料が安定しない。
飼養管理が適切に行われている。	飼養管理が適切に行われていない。農家の認識の低さ。
運動場。	飼料給与量が悪い。
放牧場を設けている。	運動不足。過肥。
早期治療をする。	観察力がない。
質の高い粗飼料を与えている。	栄養度が低いと牛が大きくなるに従い発生。
年2回のプロファイルテストの活用。	
定期繁殖検診、栄養管理	栄養管理失宜、微弱発情。
良質粗飼料。V剤	指導助言しても、実行せず。

共済事故に関する調査結果

(3) 家畜の共済事故について(馬)

表3-1 農家に大きな経済的損失をもたらす疾病・傷害であって、農家間で被害の大きさ(発生頻度)が大きく異なると思われるもの

疾病・傷害名	回答のあった施設数、割合
疝痛	4施設、19.0%
繁殖障害	3施設、14.3%
外傷	2施設、9.5%
産褥熱、消化器病、難産、運動器病、寄生虫病、呼吸器症、腸炎	各1施設、4.8%

表3-2 農家間で被害の大きさ(発生頻度)が大きく異なることに影響していると思われる要因

(単位：施設)

疾病・傷害名	飼い方 (単馬房、多馬房、放牧等)	外部からの家畜の導入頻度	家畜の観察頻度・観察力	初乳の給与	飼料の与え方	飼料の種類・質	畜舎の清掃・消毒	畜舎内飼養密度	畜舎内環境(温度、気調換等)	畜舎内の理度、気調換等	ワクチン(予防薬)の投与	その他
疝痛	0	0	0	0	2	2	0	0	2	0	1	1
繁殖障害	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0

表3-3 疝痛の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
定期的に駆虫している	駆虫をしていない
	本人が馬について良く分っていると思っている。
飼育管理の徹底	飼料の急変や給与量が日によって異なり安定しない
多少の雨なら運動させる。	過保護。

表3-4 繁殖障害の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
行動観察と早期の診療依頼	観察不足および診療依頼の遅れ
発情発見能力が高く、繁殖治療に関心がある。	繁殖治療に関心が低い
観察力	目が行き届かない

共済事故に関する調査結果

(4) 家畜の共済事故について(豚)

表4-1 農家に大きな経済的損失をもたらす疾病・傷害であって、農家間で被害の大きさ(発生頻度)が大きく異なると思われるもの

疾病・傷害名	回答のあった施設数、割合
呼吸器病	6施設、85.7%
繁殖障害	2施設、28.6%
大腸菌症	2施設、28.6%
PRRS、その他感染症、周産期疾患	各1施設、14.3%

表4-2 農家間で被害の大きさ(発生頻度)が大きく異なることに影響していると思われる要因

(単位：施設)

疾病・傷害名	飼育方法 (ストール、群飼、放牧等)	外部からの家畜の導入頻度	家畜の観察頻度・観察力	飼料の与え方	飼料の種類・質	畜舎の清掃・消毒	畜舎内養密度	畜舎内環境 (温度、気調換等)	病畜の管理・治療方法	ワクチン(予防薬)の投与	その他
呼吸器病	3	4	5	0	0	4	6	6	4	5	0

表4-3 疝痛の被害の小さい／大きい農家で共通する特徴や対策等

被害の小さい農家で共通する特徴や対策	被害の大きい農家で共通する特徴や対策
常に豚舎内での清掃が行き届いている。	清掃が不十分で汚れている。また汚れだけでなく器具などの整理されていない。
ワクチネーションと緻密な換気・温度管理	密飼い、換気不良
密飼いなし。1㎡/頭の農場	衛生管理が悪く密飼いの農場。
いろいろある	いろいろある
バイオセキュリティに気を配り、出来るだけ豚、人などによる病気の持ち込みを減らしている。ビッグフローが適正に行われている。	飼育環境が悪い。養豚場の密集地域。防疫意識が低い
換気を十分に実施している。SEPIについてワクチンを定期的に実施している。石灰乳を塗布してから導入している。	ウィンドウレスで停電すると被害大となる。観察が怠慢である。消毒薬の選択誤り。